

その1 自転車で街づくり



都市

今、過密な都市の中心部は車でいっぱい

* 生活空間を圧迫・環境負荷が増大

世界の都市で進む車への依存度を減らす動き

* 暮らしの中で、エコで人の顔の見える移動手段である自転車の利用を促進するため、

* 自転車路整備とそれを支える環境づくりが行われている

目指すは

車中心ではなく、人中心の都市

* 車の混雑・喧騒が減り、街が快適で穏やかになる

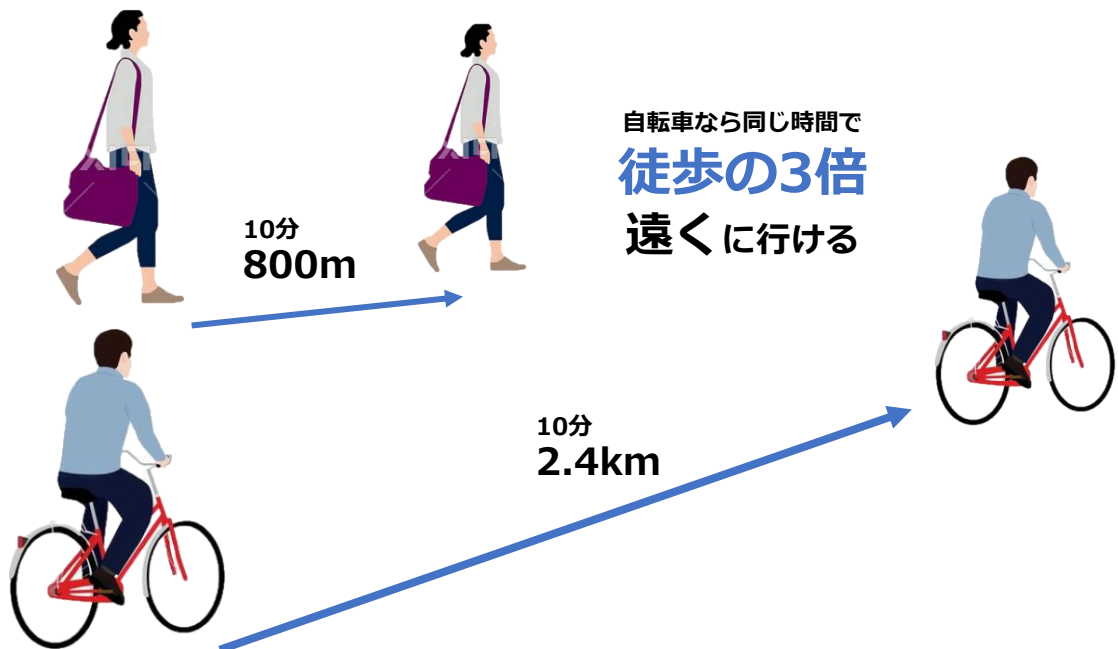
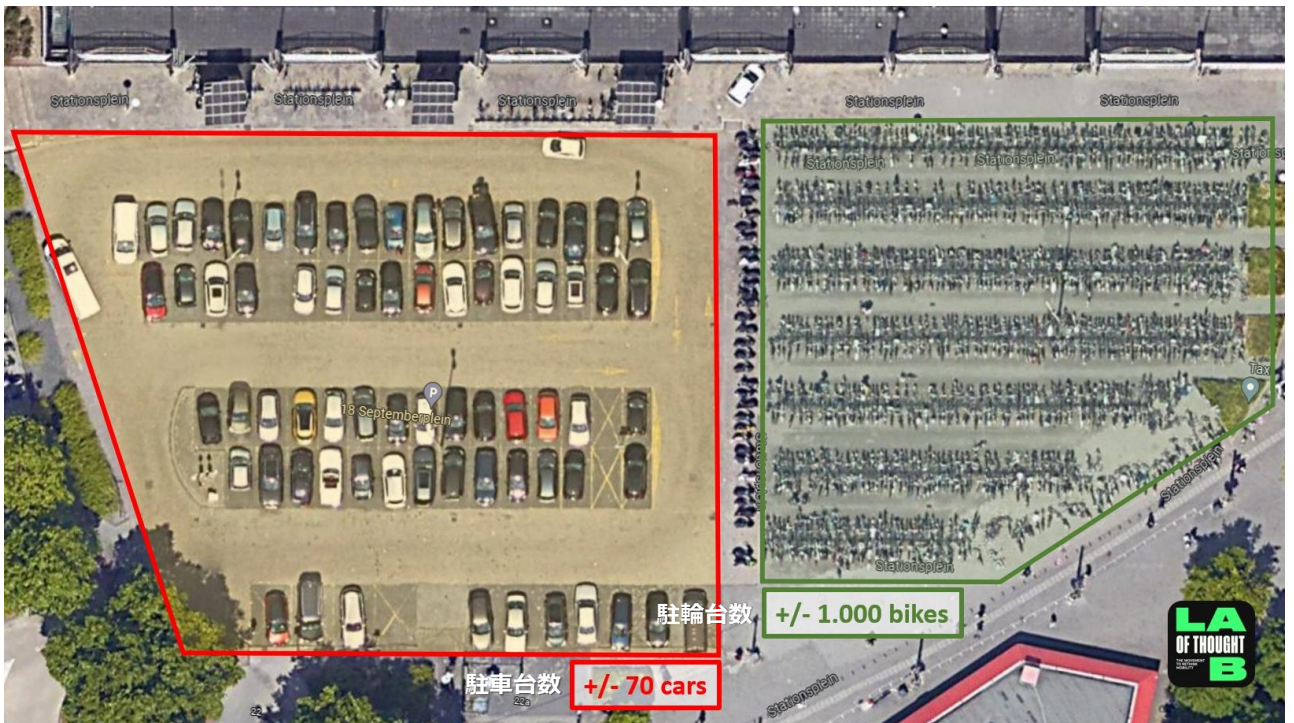
* 街なかの人の巡りがよくなる

* 都市が持続可能（社会的にも環境も）になる

自転車について

自転車は
人の顔が見える移動手段
必要スペース（道路・駐輪）も
CO2排出量も
車の10分の1で済む





人の顔が見える移動手段
自転車と仲間



車

特定小型原付

自転車

徒歩



人の顔が見える移動手段
自転車と仲間

人の日常を運んでいる



電動
車椅子

自転車



特定小型原付 免許不要で乗れる
モーターなどを使う乗り物



歩道

自転車路（自転車レーン・自転車道）

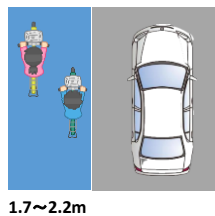
自転車と仲間が走る 自転車レーンの必要幅は？

自転車レーン：ペイントのみで車道と分離した自転車路のこと
自転車道：敷石やポールなどで物理的に車道と分離した自転車路のこと

自転車レーンの必要幅

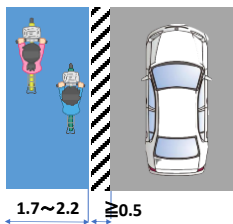
幅 2 m はほしい

* 利用者同士の追い越し
ができることが必要



1.7~2.2m

* 車の制限速度50km/h
では、0.5m以上の緩
衝帯が欲しい



1.7~2.2m ≥0.5



市川で、自転車を活用した街づくり

市川の特長を活かす！

車の利用を抑制し、徒歩、自転車、公共交通を増やしている

他の都市と比較すると

最も利用される
交通手段は？

市川市は
鉄道利用比率が
最も高い

交通手段分担率

市川市：	鉄道	41%	(徒歩24% 自転車15%)
*宇都宮市：	車	69%	(自転車13% 徒歩12%)
コペンハーゲン：	自転車	41%	(公共27% 車26%)
パリ：	徒歩	60%	(公共25% 自転車10%)

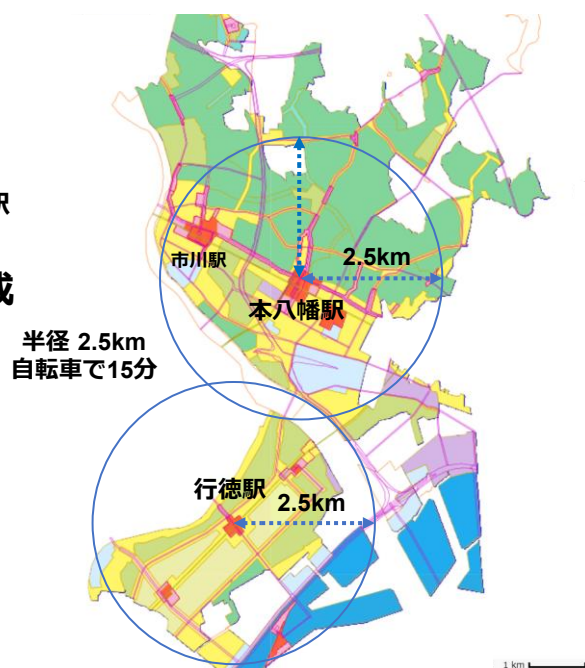
*宇都宮市はLRT導入以前の統計

市川市の特長

- 街の中心部に鉄道駅 7路線16駅
- 駅近に商住が集積し
コンパクトな生活圏を形成



- 自転車移動にピッタリな街
自転車町内
日常必要施設が家のそばにある
(鉄道駅、買物、学校、役所、病院など)



課題もある

中心部は過密で、
自転車の利用は、道の狭さ、路面の悪さ、走行マナーの問題などがあり、改善の余地あり

自転車が利用し易い
総合的な環境づくりが望まれる



いちかわ将来ビジョン

まずは

自宅から日常必要な場所に
自転車で15分で行ける

自転車快適都市

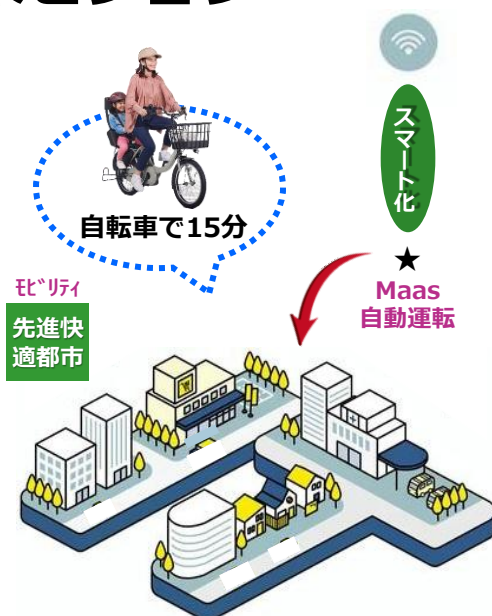
を目指したい



そしてスマート化を進め

多様なモビリティが
人の移動の自立と自由を支える

モビリティ先進快適都市
になる



イメージ

いちかわ



自転車 スイスイシティ